

大阪府立大冠高等学校 令和3年度 34期生卒業式 学校長式辞

式 辞

やわらかな日差しの中、木々の芽吹きが始まり、早春の息吹が感じられる今日の佳き日に、大阪府立大冠高等学校 第34回卒業証書授与式 を挙行できますことは、誠に喜ばしい限りであります。

今年度も、卒業証書授与式を、新型コロナウイルス感染症拡大の状況を鑑み、参列者はPTA 役員の方々のみ、及び保護者の皆さまは清聴等で行う対応につきまして、ご理解とご協力いただいておりますことに、感謝申し上げます。

たった今、34期生、318名に、卒業証書を授与いたしました。高校生活の半分以上がコロナ禍となりましたが、本日まで、温かく、愛情を持ってサポートして来られました保護者の皆様におかれましても、喜びもひとしおのことと思います。高い所からではございますが、心よりお祝い申し上げます。おめでとうございます。

あらためて、卒業生の皆さん、卒業、おめでとう。多くの制限が、かかるなか、本当によく頑張りました。オミクロン株による、いわゆる第6波の到来で、高校生活の最後の学期まで、臨時休業や自宅待機となるなど、新型コロナウイルス感染症に係る対応に翻弄された高校生活でしたが、皆さんは、それらの壁を、その都度、乗り越えてきました。

今、檀上から見る皆さんの顔はとても充実した、良い顔をしているように感じています。今後も制限等、影響は続くと思いますが、これまで培ってきた行動と心があれば、必ずや、この先もいろいろな壁を乗り越えていくことができるでしょう。

さて、皆さんの門出にあたり、私から最後のエールを送ります。卒業生の皆さん、次のステージでは、自身の殻を積極的に破ってください。これまでの経験や思い込みが、知らず知らずのうちに自分を制御する殻をどんどん破ってください。よく例えに出てくる話ですが、寄生虫のノミは、本来は30cm以上ジャンプする能力があるのに、瓶などに入れて蓋をすると、次第にその高さまでしか飛ばなくなり、蓋を開けてもその高さ以上に飛ばず、外に出ることができなくなるそうです。

私たちも、同じように、過去の経験や思い込みで、知らず知らずのうちに、自分自身の力はこんなものだと思ひ込み、自分の殻をつくっているのではないのでしょうか。一人ひとりの潜在能力は、きっと、そんなものではないはずなのに。先程、例えに出したノミは、同じ瓶のなかに、仲間のノミを入れ、瓶よりも高く飛ぶ仲間の姿を見せると、その姿を見て、自分が高く飛べることを思い出して、再び飛べるようになるそうです。皆さんも、これから始まる新しいステージで、これまでの経験から、「できない」ではなく、「できる」ために、チャレンジしていく姿勢をもち続けてください。その気持ちや行動が、やがて、自身の殻を破ることにもつながっていくのです。

また、これから長い人生の中で、自分とは異なる価値観を持った人との出会いも多くあるでしょう。これまで、自分にとって当たり前だったことも、実はそうでないかもしれないと感じることもあることと思

います。そんな経験、ひとつひとつも、皆さんが社会で生きる力の原動力となっていくはずです。ぜひ、自分の居心地の良い人だけでなく、より多くの人と関わり、他者を理解する力もつけていってください。

私は卒業生の皆さんと2年間、同じ時間を過ごしましたが、皆さんは確実に成長していると感じています。また、これまでも伝えてきましたが、皆さんには大きな伸びしろがあるとも確信しています。

今後、大冠高校の卒業生としての誇りを持ち、一日一日を大切に、試行錯誤を繰り返しながら、それぞれの目標に向かっていってください。

「継続は力なり」、良い習慣を積み重ね、着実に前に進んでいってください。

私たち教職員一同は、これからも、皆さんを応援しています。

34期生の皆さんの未来に幸、多からんことを祈念いたしまして、私の式辞といたします。

令和4年2月25日

大阪府立大冠高等学校長

田尻 誠